

第1回ユースエコクラブシンポジウム報告書



日時：平成24年3月17日(土)から18日(日)

開催場所：犬山国際ユースホテル

主催：NPOエコバンクあいち

後援：愛知県、(財)日本環境協会

助成金：公益信託 愛・地球博開催地社会貢献活動基金

協力：(株) LIXIL 住設・建材カンパニー

保険：行事に関し、以下の保険に加入

引受会社	富士火災海上保険株式会社
契約内容	対人賠償 1事故 限度額 10億円 1人当たり 限度額 3億円 財物賠償 1事故 限度額 3億円

募集の経緯：

4月	助成金の内定を受け、準備を開始。
12月	後援申請その他の準備を終え、日本環境協会のご協力を得て、参加者募集の書類を発送する。
1月末	受験期であることを考慮し、当初予定応募締め切りを延長
2月	参加者を決定。テーマごとのメーリングリストによる話し合いを開始。

参加者： 東京都、愛知県、滋賀県、石川県、長野県、富山県、沖縄県、福岡県、カナダから中学生、高校生、大学生14名が参加(うちスカイプ参加 3名)この他、企業関係者1名、サポーター5名、有識者1名、スタッフ4名、主催者3名

★この報告書は、当会ホームページでご覧いただけます。各テーマの発表内容は、オープンオフィスでホームページに掲載しています。

活動内容
3月17日(土)

- 12:00 各地より会場に集合
13:00 開会式
自己紹介
株式会社 LIXIL 好川正明氏
参加者 サポーター スタッフ (順不同)
- 14:00 英語で話そう
- 14:20 参加者の活動報告

「瀬田北中学校科学部の活動」
滋賀県の紹介、瀬田北中学校科学部の活動報告(滋賀県)



「こどもの私が思うこと/ 大人に言いたいこと」
現実に向かい合っている大人と未来を担うこどもが協力しようという呼びかけ。(福岡県)



「半田エコクラブの活動体験発表」
カヌー体験、たけのこ・蕨採り、間伐体験ができるのは自然があるおかげ。自然、生き物を守るにはどうしたらよいか。このシンポジウムで考えたい。(愛知県)

「あかぎ児童館こどもエコクラブの実践」

あかぎ児童館概要、こどもエコクラブの活動紹介

「くるくる町」のプログラム(循環型社会の体験)

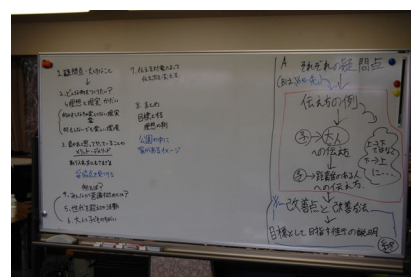
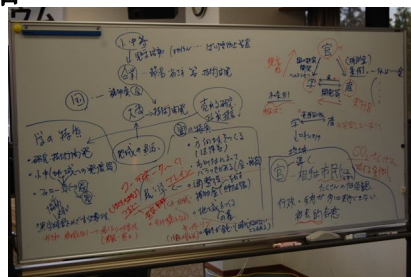
館外に出ていく児童館活動でこどもが成長し、親に変化がみられ、地域との連携が強まった。(沖縄県)

参加者は小学生のころから環境についての勉強をしてきているので、自分の考えをしっかりとっており、プレゼンテーションの仕方にも身についている。さらによりプレゼンテーションにするために、「大きな声で」「抑揚をつけて」等のアドバイスがあった。

15:00 18日に行なう土壌実験の説明
実験の概要、器具、手順の説明

15:10 休憩

15:30 各テーマで話し合いを開始
「街づくり」グループは、怪我のため出席できなかった欠席者とスカイプによる交信を開始



- 18:00 夕食
話し合いの区切りがついたグループから順次食事を摂る
- 19:00 各グループで話し合いを再開 発表準備・資料作成
- 21:00 これ以降は、各居室で継続する

3月18日(日)

- 6:00 起床
- 7:00 朝食
- 8:30 シンポジウム準備開始
- 8:45 カナダと交信開始
まず、「街づくり」グループが交信
続いて「生物多様性」グループが交信

話し合った内容について、質問し意見を求める。
カナダの現状を説明してもらう。



- 9:10 一旦スカイプの接続を中断し、各グループの話し合いに戻り、プレゼンテーション資料の作成を始める
各自適宜休憩をとりながら、プレゼンテーションの方法を考え、準備を進める
- 12:00 土壌生物実験
会場周辺から採取した土壌に棲む生物をフラスコからシャーレに移し、マイクロスコープで観察
配布された資料で名前を確認



自然界の物質循環は「分解者」と「消費者」から成り立っており、土壌生物は分解者。
自然が豊かだと大きな虫が多く、虫を点数化して表し点数が大きいと土壌が豊かということになると知った。

12:30 昼食・休憩

13:45 シンポジウム開始

「産官学の協働」

知多半島は、産官学協働が比較的成功的な事例。具体例は「知多グリーンベルト」。成功している理由として、大学には推し進める人材がおり、市町村が条例で定め、企業には連携していこうという機運があるということが挙げられる。

講評:今回は「産」からゲストを招聘したので、「官」「学」からもゲストを招聘し、3年かけて取り組んでいくとよいテーマであろう。

講評:COP10を機会にNPOやNGOが産官学をうまく結びつける傾向が見られるようになっている。



「理想の街づくり」

環境に対する意識が、人によって或は世代によって異なる。環境への意識を伝えるには、伝える相手によって方法を変える。世代を超えて相互に発信して輪を広げていく。環境に対する取り組みは、妥協点を見つけて取り入れ方を工夫し、より多くの人が取り組めるようにする。

講評:内容が若者の社会参加に傾いた趣はあるが、参加者達が感じていることが率直に伝わる。等身大の姿を発信できていると思う。



「生物多様性」

身近な生物を守るための地道な取り組みを続けている。

講評:多様な生物が棲む豊かな自然を守るには、地道な活動を継続していくことが大切だと理解している点が素晴らしい。継続していくことで、多くの人理解することにつながっていく。

講評:発表者は小学3年生から環境活動に参加しており、現在ではリーダーとして年少者の指導も行っている。活動を継承することにも努力しているのは素晴らしい。



「アートでエコ・・・絵本の作製」

時間が足らず完成には至らなかったが、子どもにはわかりにくい内容の環境問題を、絵でわかりやすく伝えることを心がけた。

講評:環境問題がわかっているアーティストの目指す方向性がよく感じられる。

講評:大人も読める絵本に仕上がっている。

講評:環境問題の表現のひとつとして、こういう形もあるんだと新鮮な印象を受けた。

講評:絵本の中で、人間が地球を傷つけているばかりでなく、助けようともしていることを盛り込んだのは、救いである。



全体の講評:参加者は、いろいろな分野に進もうとしているが、このシンポジウムが、それぞれの視点から環境を考え活動を継続していく礎となればうれしい。

14:40 シンポジウム終了
フェアウェルパーティ開始

15:30 解散

報道掲載

中日新聞社から取材を受け、平成24年3月18日(日) 朝刊近郊版に掲載された。

(写真撮影者許可)



身近な環境問題考える

若者が身近な環境問題を考える「第一回ユースエコクラブシンポジウム」が十七日、犬山市の犬山国際ユースホステルで二日間の日程で始まった。

愛知や滋賀、長野、石川など各地で環境活動に取り組んでいる高校・大学生十四人が参加した。

初日は環境に優しい環境をテーマに議論する参加者ら「犬山市環境尾

街づくりや日本のエネルギーの未来などをグループごとに話し合った。富山大二年館千晴さんらのグループは「絵で分かりやすく訴えたい」として地球温暖化問題を啓発する絵本を制作した。

二日目は各グループの発表がある。

シンポジウムは一宮市のNPO「エコバンクあいち」が、環境問題の国際的な人材育成を目的に企画した。

(平井剛)

ユースエコクラブシンボ

県内外の若者14人 犬山に集まり議論